

ています。

決算では、一般会計から例年を上回る繰入金をもっても補填が出来ず、943万8千円の赤字決算となりました。

医師および医療スタッフの確保に向けて

病院経営にとって、常勤医師はもとより、看護師をはじめとする医療技術員の体制整備は、病院運営と経営の根幹をなすものです。

医師確保の問題は、町立厚岸病院のみならず全国的に改善が進まず、特に、へき地の自治体病院や診療所

において共通した重要課題で、非常に厳しい状況が続いています。

医療や福祉はマンパワーとチームワークが大切です。町立厚岸病院が担う地域医療の確保や24時間の救急医療を維持するため、北海道などとも連携し、常勤医師の招へいと医療技術員の確保に全力で努めていきます。

老健『ここみ』の運用状況

医療と高齢者福祉に対応した介護老人保健施設『ここみ』(23床)は、町立厚岸病院と特別養護老人ホームの中間的な役割を持つ施設で、在宅で

自立した生活ができるよう、リハビリを中心に食事や入浴などのサービスを受けながら、カラオケやゲームなどレクリエーションを楽しんだり、入所者同士が交流しながら、自立した生活を支援する役割を担っています。

令和3年度決算では、収支差引き311万5千円の黒字決算となっているものの、前年度繰越金、基金繰入金の800万円を除くと、実質単年度では赤字決算となり厳しい状況となっています。

また、利用状況では、1日当たりの平均入所者数が19・6人(前年度

対比0・6人の減)の利用となりました。



救急外来の適正な利用のお願い

町立厚岸病院では、24時間の救急医療体制を整備し、救急患者の受け入れを行っています。これは突発的な症状(激しい頭痛、腹痛、胸痛、外傷等)で、緊急処置が必要な患者さんの治療を行うものです。

しかし、『コンビニ受診』と呼ばれる緊急性の低い軽症患者の受診もまだまだ見受けられます。救急外来は24時間いつでも受診できる便利な夜間診療ではなく、緊急時に対応するためのものです。コンビニ受診が増えると、重症患者への対応に影響が出たり、医師の負担が増えて疲弊にもつながります。できるだけ診療時間内に受診をお願いします。



■補助金と財源内訳の推移

(単位:千円)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
補助金	568,618	604,833	680,000
企業債元利・建設改良	152,302	162,494	162,073
救急医療	122,002	94,474	131,881
不採算地区病院対策	216,080	250,527	265,130
その他	78,234	97,338	120,916
うち法令基準に基づく国からの交付金額	219,230	217,094	248,081

※『法令基準に基づく国からの交付金額』は、国から示された数値を記載しています

■病院収支と累積欠損金の状況

(単位:千円)

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
病院事業収益	1,201,259	1,203,699	1,284,879
入院収益	236,441	244,224	258,518
(入院患者数)	(10,192人)	(10,994人)	(11,503人)
外来収益	339,734	288,111	266,509
(外来患者数)	(40,814人)	(35,302人)	(37,004人)
他会計補助金	437,570	469,582	536,703
特別利益	0	6,664	0
その他	187,514	195,118	223,149
病院事業費用	1,183,256	1,211,304	1,294,317
給与費	735,332	741,899	786,101
材料費	111,956	110,928	111,538
経費	202,189	223,231	242,479
企業債利息他	31,930	27,321	22,594
特別損失	0	6,664	0
その他	101,849	101,261	131,605
当年度純利益	18,003	△7,605	△9,438
その他未処分利益剰余金変動額	0	0	0
減債積立金処分額	0	0	0
累積欠損金	635,545	643,150	652,588
うち不良債務	1,346	0	0